

お祝いのことば

長野県議会議長

西山平四郎

このたび『山ノ内町の石造文化財』が発刊されるにあたり一言所感の一端をのべてお祝いいたします。一九九八年の冬季オリンピックの開催が決まるなど国際化がとみに進むなかで、路傍の石造碑が今なお昔を語りかけるように立ち並んでおります。往時をしのぶ集落の風物詩とでもいえましょう。風雨にさらされながら激動の風雪に耐えた石造碑は、私達の先人がそれぞれの由緒にかられ造りあげた切なる願いの表現であり、かけがいのない祖先の遺産であります。

山ノ内町に建立されてある一、一〇〇点を超す石造物の文化的遺産に対して、由来解説を記して一書にまとめられて発刊の運びとなりましたことはまことに素晴らしいことであり、心からお祝いとお慶びを申しあげます。

山ノ内町は嘗て幕府直轄の天領と松代藩の領地からなり、いわば同じ町内で異文化が混在する土地柄であり、加えて旧草津街道は草津往還の旅人で賑わったところであり、その行き来をした旅人、そして住民の哀歓を石造碑は後世まで語り伝えてくれるものでもあると思います。

文化の時代にふさわしい企画をされ、蛍雪の労をもってお取り組みいただいた関係の各位に、深甚なる敬意と感謝を申しあげましてお祝いのことばといたします。